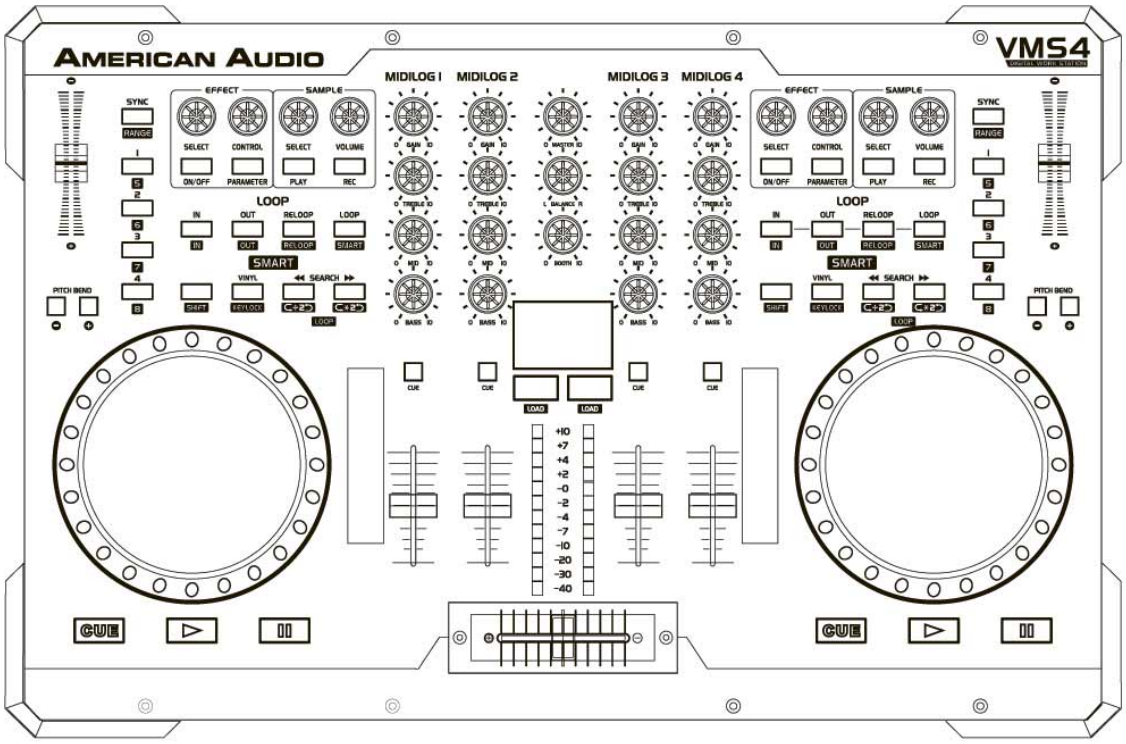
AMERICAN AUDIO
VMS4
Professional Digital Producer

取扱説明書

Featuring:

MIDI COMPLIANT
Sampling
seamless loop
QStart
inno FADER COMPATIBLE
BALANCED XLR OUTPUTS
POWER TOUCH jog wheel



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825　千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
http://www.soundhouse.co.jp　shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度はAmerican Audio社製、DJソフトコントローラーVMS4をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。VMS4は抜群の耐久性と高い性能を兼ね備えた、DJソフトウェア用コントローラーです。VMS4の性能を最大限に発揮させ末永くお使い頂くため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。尚、本書は保証書を兼ねておりますので、お読みになった後は大切に保管してください。

お取り扱い上の注意点

1. ご使用頂く前に本書を良くお読みください。
2. 本製品は精密機器です。液体の進入には大変弱いので雨や飲み物などが本体にかからないよう充分ご注意ください。風呂場、キッチン、プールなどの水周りでのご使用はお控えください。
3. 直射日光の当たる場所や暖房機器の前など高温になりやすい場所を避け、本機はなるべく通気性の良い場所に設置してください。
4. 本製品はストーブ等の熱源から離して使用してください。
5. 定格電圧AC100V, 50/60Hz でご使用ください。
6. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には、大きな衝撃が加わらないようにしてください。
7. 電源コードには機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様にご注意ください。
8. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にしてください。
9. 本製品は半導体レーザーを使用しております、お使い頂く際は室内温度が5℃～35℃以内であることをお確かめください。
10. 下記の場合、本製品の使用をお止め頂き、専門店または販売店にご相談ください。
    - 電源ケーブルやプラグの損傷、断線
    - 部品が取れた、液体を本体に溢した
    - 雨や水を請けた
    - 通常通りに動かない

    故障が生じた場合はお手数ですが販売店もしくは正規代理店に連絡してください。
    無断で本体カバーを開けられた場合、保証の対象外となることがあります。
    梱包を開き破損した部品や欠品がないか確認してください。
    本体に異常がある場合は本製品の使用をお止め頂き、販売店にご相談ください。

セットアップ時の注意点

1）まずVMS4に電源ケーブルが接続されていないことを確認してください。
2）VMS4の電源スイッチを入れる前に、ボリュームコントローラー及びフェーダーなどのつまみはゼロに合わせてください。
3）温度差の激しい状況下にあった場合、すぐに電源を入れない様ご注意ください。
4）結露により本体が故障する恐れがあります。
5）室温に達するまで、本体の電源は切っておいてください。

ご使用の前に

- VMS4を設置する際は高温多湿、塵や埃にご注意ください。
- 30度以上の高温や5度以下の低温下でのご使用はお控えください。
- ヒーターの傍に置いたり、太陽の直射日光に当てたりしないようご注意ください。
- 故障を回避する為にも操作方法を良くご理解の上ご使用ください。

主な機能

- 両サイドに 4 つのサンプルボタンを配置
- ボリュームフェーダー搭載 4 チャンネルミキサーを内蔵
- USB 接続による MIDI コントロールに対応
- ステレオバランスの調整が可能なマスター/ブース出力
- 4in 4out または 2in 8out 切替式のサウンドカードを内蔵
- X & Y パラメーターアジャスト機能搭載
- シームレスループ機能（途切れの無いループ）
- マスター出力はボリュームコントロールが可能。
- 4 つの MIDILOG チャンネルと 2 つのマイク入力に EQ を搭載
- トラック&デッキセレクター
- クロスフェーダーは自由に CH アサインが可能。カーブ調整とリバース機能を付属
- 2 つのタッチセンシティブホイール搭載
- ピッチロック機能
- 2 系統のマイク入力（XLR-PHONE コンボジャック）
- ピッチベンドボタン
- 82 MIDI Controls
- 82 の MIDI コントロールが可能
- タッチストリップ、マウスパッド搭載
- 全ての MIDILOG チャンネルは、USB とアナログ入力の切替が可能

VIRTUAL DJ LE システム要件

PC Requirements:

- Windows XP Sp2 または Windows Vista (32bit & 64bit)
- PIV 1.2GHz Computer (SSE2 CPU), AMD 64 またはそれ以上
- 1024_768 SVGA Video
- 2 GIG RAM (Vista)
- 40MB 以上の HDD 空き容量 (2000MB 以上推奨)
- DirectX 9.0

Mac Requirements:

- Mac OS X 10.5 PPC/Intel, 10.5.6 Intel, or 10.6 Intel
- 1.86GHz
- 2GB RAM

＊システム要件は、使用するソフトウェアに起因する場合があります。上記スペックを満たす全てのコンピュータでの動作保証をするものではありません。

セットアップ

1. パッケージ内容の確認

パッケージを開封し、以下の内容が全て同梱されているか確認してください。

- VMS4 コントローラー
- 取扱説明書（本書）
- USB ケーブル
- 電源アダプタ
- Virtual DJ ソフトウェアインストール CD

2. 本体の設置

VMS4 は十分なスペースのある平らな場所に設置してください。

VMS4 は直射日光の当たる場所や、高温、高湿度になる場所へ設置しないでください。

可能な限りテレビやチューナーなどから離して設置してください。

3. 接続

オーディオ接続：RCA または XLR ケーブルを使用してパワーアンプやパワードスピーカーなどに接続してください。DJ ミキサーの PHONO 入力には接続しないでください。

コントロール信号の接続：1/8”モノラルコネクタのケーブルを使って、American Audio Q-Start 対応の DJ ミキサーと接続してください。

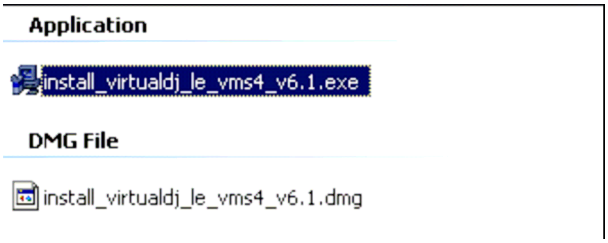
注意

- 必ず 1/8”モノラルコネクタを使用してください。他のケーブルを使用することで、機器がダメージを受けることがあります。
- 本機を他機器と接続する際は、必ず電源が OFF になっていることを確認してください。

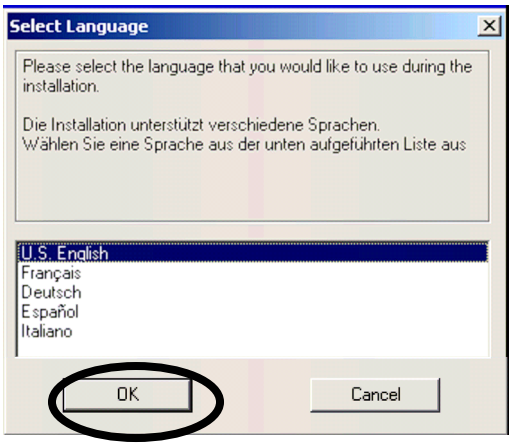
ソフトウェアと ASIO ドライバーのインストール

インストール CD をコンピュータの CD ドライブに挿入し、CD のアイコンをクリックしてください。

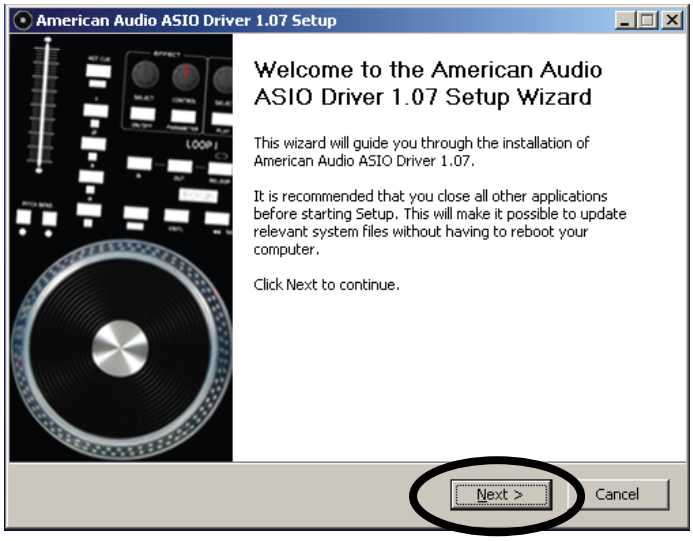
開いたフォルダの内容を確認し、Windows ユーザーは EXE ファイルを、Mac ユーザーは DMG ファイルを選択してください。



任意の言語を選択し、OK を押して下さい。続くインフォメーションを読んでから NEXT をクリックしてください。画面の指示に従い、ソフトウェアのインストールを行ってください。



Virtual DJ ソフトウェアのインストール中に、ASIO ドライバーのインストール画面が開きます。Windows ユーザーは画面の指示に従って、インストールを進めてください。Mac ユーザーは DMG ファイルをクリックすれば自動的にインストールが行われます。



本体の機能とコントロール

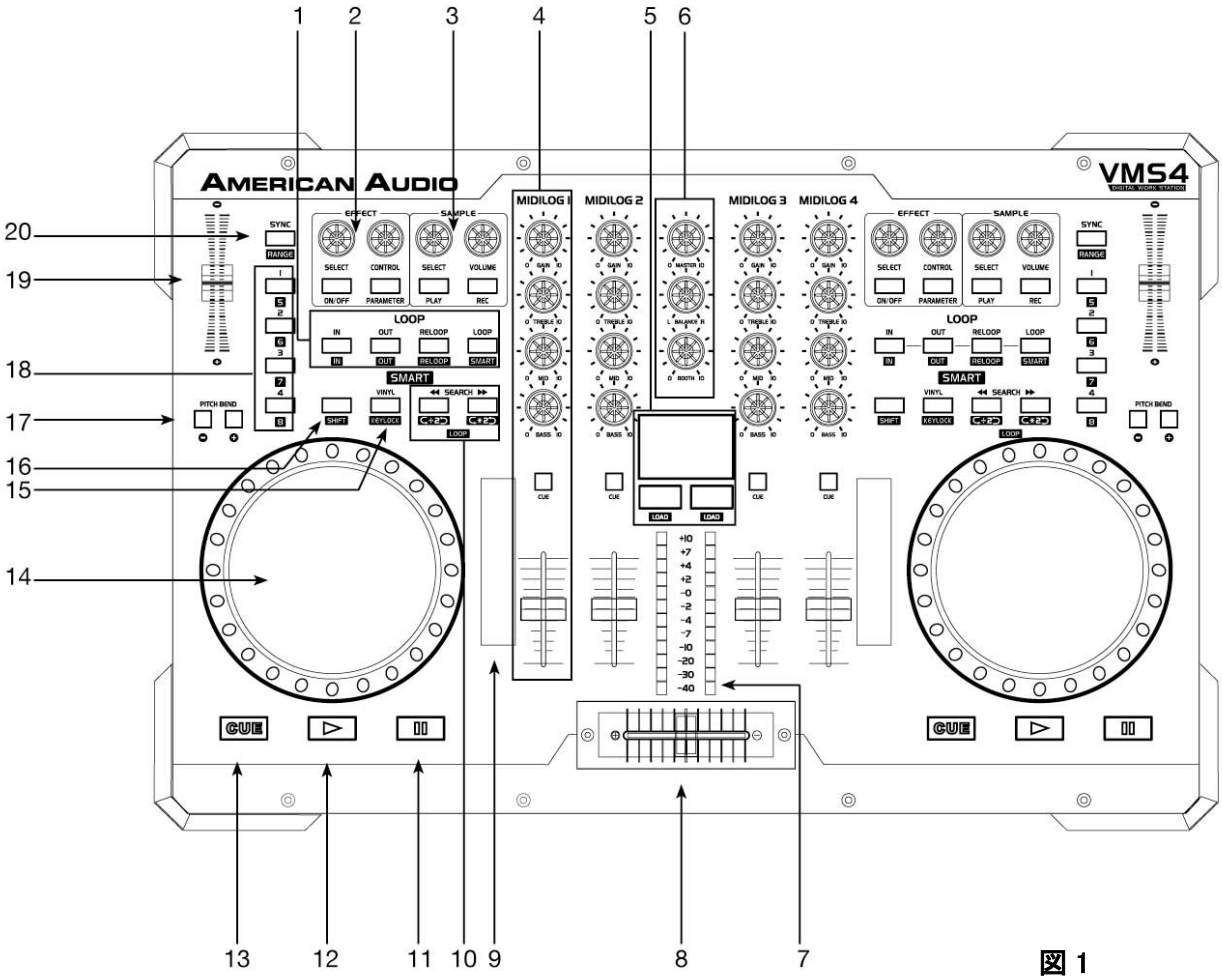


図 1

プレーヤー（図 1）

1. **IN, OUT, RELOOP**

[IN ボタン] – “CUE” –

楽曲の再生を止めることなく、CUE ポイントを設定します。

また、このボタンはシームレスループのスタートポイントを設定します。

[Out ボタン]

このボタンはループのエンドポイントを設定します。ループは IN ボタンを押してスタートし、OUT ボタンを押してエンドポイントがセットされます。

ループ再生はもう一度 OUT ボタンを押すまで継続します。

[RELOOP ボタン]

ループ再生を終えた後にループに戻る場合は、REOOP ボタンを押して下さい。OUT ボタンを押すまでループは継続します。

2. エフェクトセクション

[SELECT ノブ]

ノブを回してエフェクトを切り替えます。

[CONTROL ノブ]

Sノブを回してエフェクトのパラメータを調節します。

[ON/OFF ボタン]

エフェクトのON/OFFを切り替えます。ONのときはLEDが点灯します。

[PARAMETER ボタン]

エフェクトパラメータを切り替えます。

3. サンプルセクション

[SELECT ノブ]

サンプルを切り替えます。

[VOLUME ノブ]

サンプルの音量を調整します。

[PLAY ボタン]

選択したサンプルを再生します。SHIFTボタンを押しながら再生を始めるとサンプルがループします。

[REC. ボタン]

サンプルの録音を開始/停止します。ループ再生中に SHIFT ボタンを押しながら REC ボタンを押すとループを保存します。

4. MIDILOG ミキサーセクション

[GAIN コントロール]

それぞれのチャンネルのインプットゲインを調節します。正しくゲインレベルを調整することは、きれいな音質で出力するために重要です。

1. マスターボリュームをレベル4にセットしてください。
2. チャンネルフェーダーをレベル8にセットしてください。
3. ゲイン調整をしたいチャンネルで再生を開始してください。
4. 平均的な出力レベルが+4dB前後になるよう、ゲインコントロールを動かしてください。
5. 同様に全てのチャンネルでゲインを調整してください。

[TREBLE コントロール]

それぞれのチャンネルの高音域を+6dB から-100dB の間で調節します。

[MID コントロール]

それぞれのチャンネルの中音域を+6dB から-100dB の間で調節します。

[BASS コントロール]

それぞれのチャンネルの低音域を+6dB から-100dB の間で調節します。

[CUE ボタン]

CUEモニターのON/OFFを行います。ONになるとLEDが点灯します。CUE信号はヘッドホンでモニターすることができます。ボリュームはCUEレベルノブで調整します。

[NOTE]

MIDILOG CUE ボタンには追加機能があります。電源を入れる際に CUE ボタンを押し続けると POST EQ モードの ON/OFF を切り替えることができます。詳しくは Virtual DJ セットアップの項目を参照してください。

[チャンネルフェーダー]

出力ボリュームをチャンネルごとに調整します。

5. マウスパッド

ノート PC に付属するようなマウスパッドです。LOAD と記載されている上はマウスの左右のボタンに相当します。SHIFT ボタンを押しながら操作すると、マウスパッドの機能が OFF になり MIDI メッセージを送信することができます。マウスパッドの調整はコントロールパネル（win）やユーティリティ（mac）で行ってください。

6. マスターボリューム、バランス、ブースコントロール

[マスターボリュームコントロール]

マスター出力のレベルを調整します。出力レベルは最大で+4dB を超えないように注意してください。スピーカーなどにダメージを与えないために、本体の電源を ON にする時はマスターボリュームはゼロにしてください。

[マスター出力バランスコントロール]

マスター出力のステレオバランスを調整します。

[ブースレベル]

BOOTH モニターの出力レベルを調整します。

7. ボリュームレベルインジケーター

CUE モニターにセットされているチャンネルのレベルメーターです。電源を ON にする時、このインジケーターでファームウェアのバージョンを確認することができます。もし左の LED の一つが点灯し右の LED が 3 つ点灯した場合、ファームウェアのバージョンは 1.3 となります。3.11 の場合、左の LED が 3 つ、右の LED が 11 ヶ点灯します。

8. クロスフェーダー

左右に動かして 2 つのチャンネルをスムーズに Mix します。クロスフェーダーの左右はフロントパネルでアサインするチャンネルを設定することができます。

9. タッチストリップ

ユーザーが独自にエフェクトコントロール、楽曲やブラウザのスクロールに設定することが可能です。

10. サーチボタン-

◀◀ トラック内を戻ります。

▶▶ トラック内を進みます。

11. ポーズボタン

再生をポーズ(一時停止)します。

12. プレイボタン

再生を開始します。

13. CUE

設定された CUE ポイントへ戻ります。

14. ジョグホィール

ジョグホィールには3つの機能があります。

注意:

VMS4の電源を入れる際は、ジョグホィールに何かを置いたり手で触れたりしないでください。

A. 再生中にピッチベンドとして使用できます。

B. スクラッチエフェクト機能がONの時に、スクラッチジョグホィールとして使用します。

C. フレームサーチとして使用します。

注意: タッチセンサーはジョグダイヤルのトップのみに配置されており、円周側にはタッチセンサーがありません。

15. VINYL

VINYL モードの ON/OFF を切り替えます。

16. SHIFT

MIDI コマンドを切り替えます。SHIFT を押しながら、操作することで、各ボタンの機能は白抜き文字に切り替わります。

17. (−) ピッチベンドボタン− (−)　ボタンを押している間だけ、ピッチを遅らせます。

(+) ピッチベンドボタン− (+)　ボタンを押している間だけ、ピッチを早めます。

18. バンクボタン

これらのボタンに CUE ポイントを保存します。

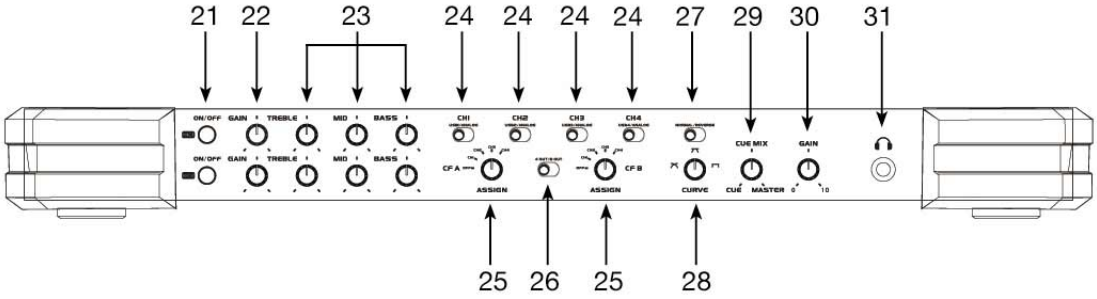
19. ピッチスライダー

再生中の楽曲のピッチを調節します。

20. SYNC ボタン

別のデッキとピッチを自動的に揃えます。

フロントパネルの機能とコントロール



【マイクセクション(21-23) 】

VMS4 は 2 つのマイク入力を装備しています。

21. マイク ON/OFF

マイク入力を ON/OFF を切り替えます。

22. マイク GAIN コントロール

マイク入力のボリュームを調整します。

23. マイク EQ

それぞれのマイク入力に対応する 3 バンドイコライザーです。

【ミキサーコントロール (24-25) 】

VMS4 は MIDI コントローラー、DJ ミキサー、それらの両方として動作します。

24. USB/ANALOG スイッチ

チャンネルごとに USB オーディオとアナログ入力を切り替えます。

25. クロスフェーダーアサイン A & B

C クロスフェーダーの左右にアサインするチャンネルを設定します。

【インターフェースモード（26-28）】

VMS4 は MIDI コントローラー、DJ ミキサー、それらの両方として動作し、
ヴァイナル、CD、コンピューターDJ を統合するインターフェースです。

26. 4 OUT: 4 OUT X 4 IN USB

MIDILOG 2と3をUSBオーディオとして使用します。

8 OUT: 8 OUT X 2 IN USB

Sets 4 つの MIDILOG チャンネルを USB オーディオとして使用します。

27. NORMAL/REVERSE

クロスフェーダーのポジションをノーマルとリバースに切り替えます。

28. クロスフェーダーカーブ調整ノブ

クロスフェーダーのカーブを調整します。

29. CUE/MASTER ノブ

ヘッドホン出力をCUEモニターとマスター出力で調整します。

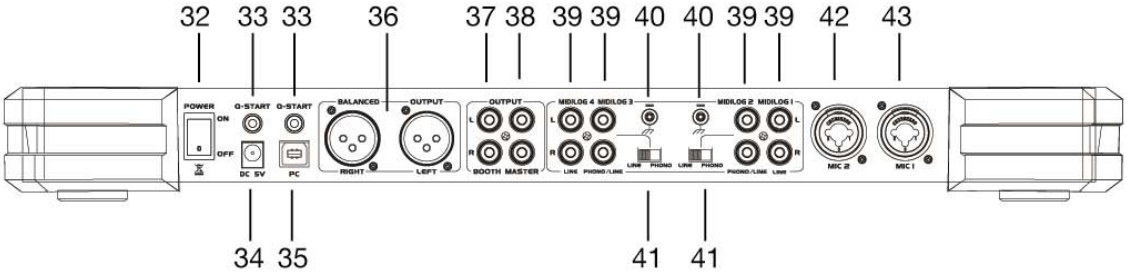
30. ヘッドホン GAIN

ヘッドホンボリュームを調整します。

31. ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続します。

リアパネルの機能とコントロール



32. 電源スイッチ

電源のON/OFFを切り替えます。

注意: VMS4 の電源を入れる際は、ジョグホィールに何かを置いたり手で触れたりしないでください。

33. Q-START

1/8”モノラル端子でQ-Startを搭載したCDプレーヤーと接続します。

34. 電源アダプタ

VMS4はUSBバスパワーによる動作が可能ですが、付属の電源アダプタを使用することで、より安定した電源を本体に供給することができます。

35. USBポート

付属のUSBケーブルを使用して、コンピュータと接続します。

36. XLR バランス出力

VMS4はRCA（アンバランス)とXLR（バランス)端子でアンプなどと接続することができます。

XLR（バランス）出力はアンプまで20m以上のような長いケーブルを使用する場合に推奨されます。

37. ブース出力

VMS4はモニター用出力としてブース出力が搭載されています。

38. RCA出力

VMS4はRCA（アンバランス)とXLR（バランス)端子でアンプなどと接続することができます。

XLR（バランス）出力はアンプまで20m以上のような長いケーブルを使用する場合に推奨されます。

39. RCA入力

CDプレーヤーやターンテーブルなどを接続するためのRCA入力端子です。

MIDILOG 1:CDプレーヤー、MP3プレーヤーなどを接続できます。

MIDILOG 2:ターンテーブルやCDプレーヤーなどを接続できます。接続する機器により、
PHONO/LINE切替を正しく設定してください。

MIDILOG 3:ターンテーブルやCDプレーヤーなどを接続できます。接続する機器により、
PHONO/LINE　切替を正しく設定してください。

MIDILOG 4: CD プレーヤー、MP3 プレーヤーなどを接続できます。

40. PHONO GROUND

ターンテーブルを接続する際は、アースを接続してください。

41. LINE/PHONO 切り替えスイッチ

入力端子の PHONO/LINE を切り替えます。ターンテーブルを入力する際は PHONO、CD プレーヤーなどを入力する際は LINE に切り替えてください。

42. MIC 2

XLRまたは1/4″フォンを使用できるコンボジャックへマイクを接続してください。

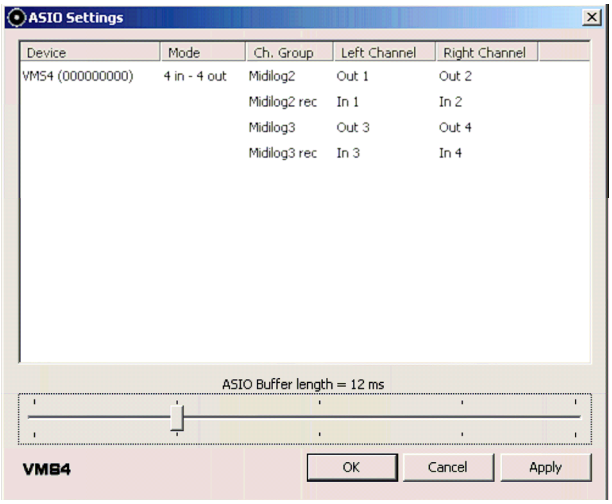
43. MIC 1

XLR または 1/4″フォンを使用できるコンボジャックへマイクを接続してください。

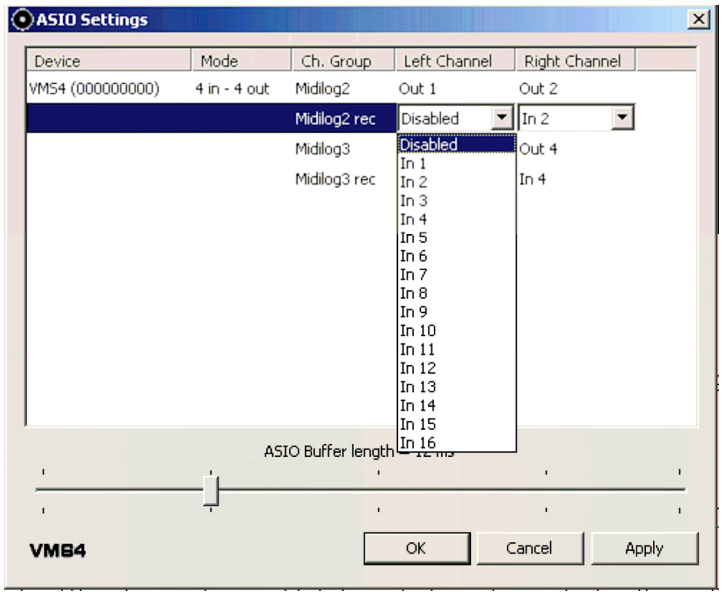
オーディオインターフェースモード

Audio Interface Mode:

4 Out モード: VMS4 は 4in 4out のオーディオインターフェースとして使用できます。その際 USB オーディオは MIDILOG 2 と 3 にアサインされます。またタイムコードコントロールなどを使用する場合は、VMS4 の USB 入出力設定を以下の通り正しく設定してください。



注意: 安定した動作環境のために、もし入力ソースが必要無ければ入力チャンネルは Disabled に設定してください。入出力チャンネルが 1 から 16 まで選択できるようになっていますが、使用するソフトウェアによってはこれらのチャンネルに対応していない場合があります。



8 Out モード: このモードは 4 つの USB オーディオを扱うことができます。これにより 3 つや 4 つのデッキを持つソフトウェアに対応することができます。

MIDI レイテンシーモード

Normal モードと Turbo モードという 2 つの MIDI レイテンシーモードがあります。 デフォルトの Normal モードでは MIDI レイテンシーが 10 ミリ秒、Turbo モードでは MIDI レイテンシーが 1 ミリ秒となります。

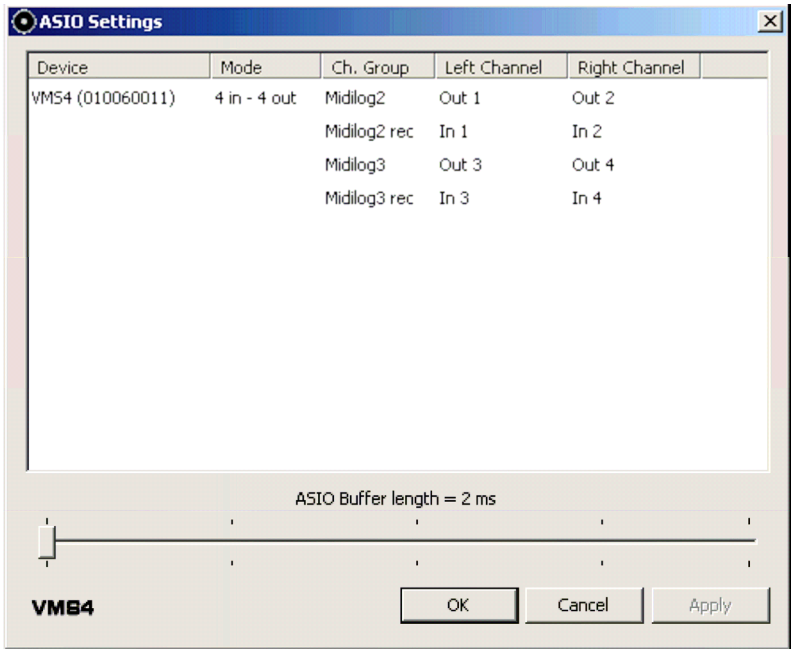
Turboモードの設定:
左デッキの CUE, PLAY, PAUSE ボタンを全て押したままにしてから、電源を ON にします。中央のチャンネルボリュームインジケーターにコードバージョンが表示されるまで、3 つのボタンを押したままにしてください。

非力なコンピュータや Windows Vista を使用している場合は、Normal モードでの利用を推奨します。また、Turbo モードは CPU への負荷が大きくなるため、バックグラウンドで動作しているソフトウェアや Wireless カードの機能を OFF にしてください。

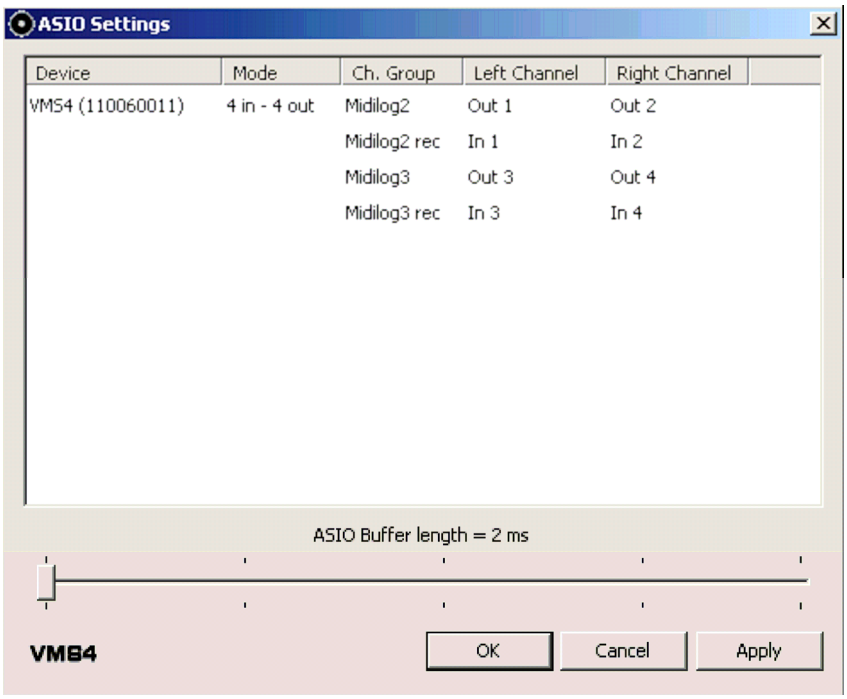
EQ モード

USB オーディオで EQ を使用する際は、Pre/Post の選択が可能になっています。

デフォルトの Pre EQ で USB オーディオは VMS4 の EQ が有効となります。Pre EQ モードの時、ASIO Driver は VMS4 のデバイスナンバーの最初の 1 桁を”0”で表します。



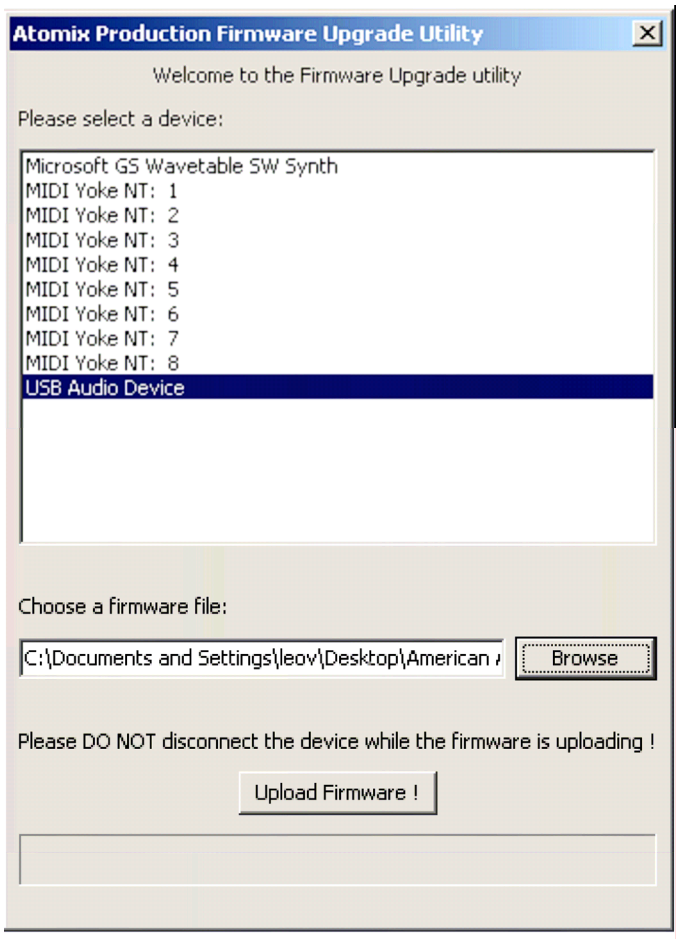
Post EQはソフトウェアでのEQを使用する際に設定します。Post EQモードの切り替えは、VMS4の電源を入れる際に、MIDILOG4のCUEボタンを押し続けます。ボタンを離してから10-20秒ほどで、コンピュータはVMS4を新しいデバイスとして認識します。ASIOドライバーを開きデバイスナンバーの1桁目が”1”になっていれば、Post EQモードへ変更されています。



ファームウェアアップデート

Virtual DJ にはファームウェアアップデートユーティリティが含まれています。必要な時にインストールすることで、VMS4 をアップデートすることができます。

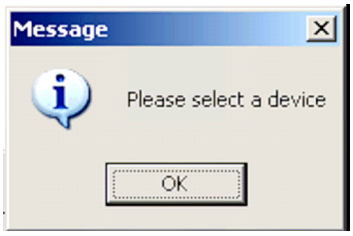
1. コンピュータのオーディオ設定を確認し、VMS4がオーディオの再生、録音、MIDIデバイスとされていないことを確認してください。
2. スタート ＞ すべてのプログラム ＞ Virtual DJ ＞ FIRMWARE Updateをクリックしてください。
3. VMS4 または USB Audio Device を選択し、ブラウザをクリックしてアップデートファイルをロードしてください。



4. “Upgrade Complete”と表示が出るまでお待ちください。

5. VMS4 から USB ケーブルを取り外し、電源を OFF にしてください。

アップデート中に起こるエラー表示例です。それぞれ正しくアップデートが行われるよう変更をしてください。



正しいデバイスを選択して下さい。

コンピュータのオーディオ設定を確認して、VMS4 がオーディオの再生、録音、MIDI デバイスとされていないことを確認してください。

コンピュータとの接続

1. VMS4 と PC

VMS4 とコンピュータは、付属の USB ケーブルで接続します。

CLEANING

埃や汚れが溜まらないよう定期的にクリーニングを行う必要があります。

1. 柔らかい布を使って、本体の汚れをきれいに落としてください。
2. 電気機器に対応する特別なクリーナーを使用して、フェーダーやノブ、スイッチなどの汚れを取ってください。
3. クリーニングは30-60日の範囲で行ってください。
4. 常にドライな環境でご使用ください。

クロスフェーダーの交換

クロスフェーダーは使用頻度が比較的高く、ガリなどの不具合が比較的出やすいパーツです。ガリなどの不具合が出た際には、クロスフェーダー (part# Z-FF-8)の交換をオススメ致します。

クロスフェーダーの交換手順:

1. 本体から電源アダプタを取り外してください。
2. ドライバーを使用して、クロスフェーダー左右の外側のネジを取り外してください。
3. 丁寧にクロスフェーダーを本体から抜き取ってください。
4. クロスフェーダーを取り出してから、リボンケーブルを取り外してください。
5. 内側の左右のネジを取り外し、新しいクロスフェーダーにプレートを付け替えてください。
6.リボンケーブルを接続しなおし、フェーダーを元の場所に設置してください。

保証書

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より１年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より１年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱い方法が不適当（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記してください。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。